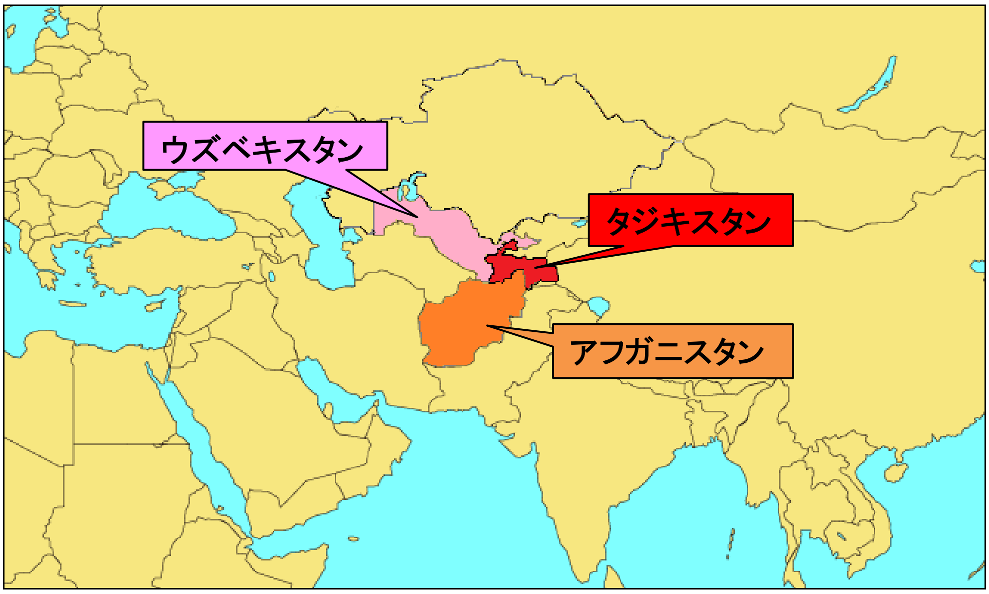
タジキスタンでポリオが流行

2010 年 4 月 24 日　ProMED 情報（WHO、GAR）



4 月 23 日、世界保健機関（WHO）は、タジキスタンで 1997 年以来、初めての野生株ポリオの流行を確認しました。

ポリオウイルス１型が、タジキスタンの急性弛緩性麻痺(AFP)の患者から検出されました。WHOヨーロッパ地域が 2002 年ポリオの清浄地域を確証して以来ヨーロッパ地域では、最初のポリオウイルス輸入例です。

4 月 21 日現在、120 名のAFP患者が報告されています。患者の多くは過去 2 週間に発症しました。10 名の子供が死亡しました。患者の大部分は 5 歳以下の子供です。予備調査によると、45％以上には経口ポリオワクチン（OPV）の 4 回以上の接種歴があるそうです。

これまでにポリオウイルス 1 型が、7 名の検体から分離されました。すべての患者が、アフガニスタンとウズベキスタンに国境が接している南西部の住民です。アフガニスタンはポリオ常在国 4 ヵ国の 1 つですが、タジキスタンに接しているアフガニスタンの地域では、患者はこれまで報告されていません。

2008 年のタジキスタンでのポリオワクチン（OPV3）の接種率は報告によれば 87％でした。2009 年、タジキスタンは、AFPを発症した 35 名の患者を報告しましたが、野生株ポリオウイルスによるものはありませんでした。同年世界中では、90,000 名以上のAFP患者が報告され、1,606 名が野生株ポリオウイルスが原因でした。

今回のタジキスタンでの流行は、ポリオの感染伝播が世界中で阻止されるまでには高水準の集団免疫を維持する必要性があることを証明しています。

〔ProMED 調整者〕

今回の流行は、ポリオウイルスが隣接するアフガニスタンから侵入した可能性がある。また、ウズベキスタンにも 3 名の疑い患者報告されており、同国にも拡大したかもしれない。

45％以上の患者は 4 回以上のワクチン接種を受けているという記事は、ワクチンに問題があったのではないか等の疑問が生じる。

厚生労働省　福岡検疫所